

IS技術者のためのPsytech研究会 第3回会合のご案内

テーマ：ポジティブ心理学

今回はポジティブ心理学の専門家にご登壇をお願いしました。ポジティブ心理学の考え方は、人間の情報行動に意味作用をもたらし、働く人の仕事上のやりがい感を高めることができる可能性があります。会合においては、ポジティブ心理学についての講義、そしてつよみを活かすためのワークを予定しています。自らのつよみを理解し、仕事上のやりがい感を高める方法を実感できる内容です。

プロジェクトにおけるメンタル面のケア等を日頃担当されている管理者やリーダーなど、専門的に心理学を学んだ経験がない方を主な対象とします。

IS技術者の方、IS企業/IS部門の管理者の方、
IS技術者の心理的支援に関心のある方のご参加をお待ちしています。

記

日時：2018年6月13日（水）18：30～20：30

場所：専修大学 神田キャンパス（神保町）7号館 8階 784教室

<https://www.senshu-u.ac.jp/about/campus/>

講師：島井 哲志先生（関西福祉科学大学心理科学部 教授）

テーマ：「ポジティブ心理学とつよみ」

参加費：不要

★参加ご希望の方はメールでお知らせください。

★ワークの都合上、予定人数に達した時点で参加申込の受付を終了します。

主査 三村和子（e-mail:kzkmimura■gmail.com）※■は@に置き換えてください。

～本研究会のテーマ設定について～

1. なぜPsytech^{*1}か

様々な分野で情報技術の活用が加速的に進んでいます。例えば、Fintech(Finance+Technology)、Agritech (Agriculture+Technology) という用語を見かけることが増えました。心理学の分野においても、同様の動きが予想されます。その際、Psytech が目指す世界はどのようなイメージなのでしょう。Psytech はどんな場面で活用され、どのように人々に浸透し、結果として何をもたらすのでしょうか。

心理学全般は、心のはたらきに着目し、様々な問題を解明することにより、幸福の実現を目指すものです。一方、心理に関わる事柄を部分的に捉え、安易に情報技術を適用することは大変危険なことであり、個人のみならず社会に深刻な事態を引き起こしかねないとの懸念があります。逆に、Psytech により新しい心理的支援の創造が想定され、人々の幸福に寄与する可能性もあります。個人の幸福に関わることであり、情報技術がもたらすメリット・デメリットを慎重に検討してゆく必要がありますが、このことについて日本では検討が進んでいないのが現状です。このような問題意識のもとで、本研究会では、基礎情報学^{*2}を用いたアプローチを志向し、Psytech を情報システムとして捉え、そのモデルを人間中心の視点を据えて検討していきます。

基礎情報学の提唱者である西垣通先生は、情報技術の活用に関し以下のように警告しています。

「ITの進歩とともに人間と機械の活動は複合的に組み合わさっていくはずだが、ITエージェント（西垣先生による注：人間の代理機能をはたすIT）はあくまで人間社会の生命的ダイナミックスを補強する手段として用いられるべきなのである。」*3)

2. なぜ、IS技術者の心理的支援をテーマとするのか

インターネットの普及、IoT、AI技術の進歩など、IS技術者の人材需要は高まっています。社会においてIS技術者の役割が増す一方で、日本ではIS技術者は長時間労働ややりがい感の欠如等が問題視され、未来を担う輝かしい職種であるはずが現状はそうとは言えないようです。

IS技術者の管理者の中には、IS技術者が抱える心理的な問題は仕事上の成果に直接影響すると考え、具体的に対処する人も増えてきました。IS技術者のメンタルヘルス上の問題解決について、一部の企業ではノウハウが蓄積されているところもあります。IS技術者がやりがいを持って仕事をすすめられるかどうかについて、組織として配慮されるようになったことは喜ばしいことです。しかし、当学会で提唱するように、組織としてのプロジェクトマネジメント上で心理的問題を扱う「プロジェクト・メンタル・プロセス」*4)を実践するには至っていません。そこで、本研究会では、IS技術者の心理的状态を、基礎情報学で定義されている「心的システム」、「自己観察」の概念*3)を用いて分析し、IS技術者のための心理的支援にどのような可能性があるのかを検討し、IS技術者のためのPsytechとして情報システムモデルを提示してゆきます。

3. 今回のテーマ設定：「ポジティブ心理学」について

過去の会合において、第1回「働く人のための認知行動療法入門」、第2回「パターン・ランゲージの開発」をテーマとしました。

第1回会合において、認知行動療法の枠組みは、実際のプロジェクト運営におけるコミュニケーションやIS技術者の認知を理想的なものに近づけるための参考となりました。そして、第2回会合において、「旅のことは：認知症とともによりよく生きるためのヒント」の製作プロセスは、超上流工程（構想が明確でない段階）における標準プロセスとして展開可能であることがわかりました。

今回は、人間のこころの働きをポジティブに捉える「ポジティブ心理学」をテーマとし、IS技術者が専門職としての技術や能力を高めつつ、プロジェクトでの成果に貢献することで、仕事上のやりがい感や幸福感を高めることについて、参加者の方々と一緒に検討していきたいと考えています。

*1)Psytech（サイテック）とは：IT技術を使った新たな心理的支援。心理学を意味する“psychology”と、技術を意味する“technology”を組み合わせた造語

*2) 西垣通（2004）基礎情報学：生命から社会へ NTT出版

*3) 西垣通ほか（2014）基礎情報学のヴァイアビリティ：ネオ・サイバネティクスによる開放系と閉鎖系の架橋 東京大学出版会

*4)メンタル・プロセス・マネジメント：「新情報システム学序説 情報システム学会新情報システム学体系調査研究委員会編」において、プロジェクトマネジメントの機能、役割を構成するプロセスとして、従来の「プロジェクトマネジメント・プロセス」および「ソフトウェア・エンジニアリング・プロセス」に加えて、「プロジェクト・メンタル・プロセス」が重要であると示されている。